

## 倫理講義 5 ルネサンスと宗教改革

**得点源** イタリア・ルネサンスは、**ヒューマニズムとヒューマニストたちの求めた人間像を理解しよう!**

1 **ルネサンス**…イタリアのフィレンツェを中心にヨーロッパ各地でおこった文芸運動

再生・復興・復活・回復の意

2 **ヒューマニズム(人文主義、人間中心主義)**…古代ギリシア・ローマの文芸を手本に新しい人間の生き方を見だし、人間の尊厳とは何かを探究する立場。

キリスト教倫理に支配されていた中世から脱し、自由に人間らしく生きてどうということなのか、かにもくわからない。だから、モデルを古代ギリシア・ローマの文芸を参考に、**人間らしく生きてどうということか学ぼうとした** わけだ。

3 **万能人**…イタリア・ルネサンス期の理想的な人間像。自己の能力を最大限に発揮し、あらゆる分野で才能を発揮する人間のこと。

例→ **レオナルド＝ダ＝ヴィンチ**、**ミケランジェロ**、アルベルティなど。

**得点源** おもなヒューマニストを整理せよ!

1 **ダンテ**…著書「**新曲**」

本当の信仰とは何か、愛・正義とは何か、を追求し、神の言葉通りに生きることが人間らしく生きることと説いた。

2 **ボッカチオ**…「**デカメロン**」

リアルな人間の生き方がいかに不道徳で不謹慎なものであるかを痛烈に描いた→神の教え通りに生きるのは、人間らしい生き方でないと主張。

3 **ピコ＝デラ＝ミランドラ**…「人間の尊厳について」

人間の尊厳を→**自由意志(2003 出題済)**に見出した。人間が望めば、聖霊にもなれるし、神にも近づける。逆に、欲望と本能の赴くままに生きれば動物に墮落する。

4 **マキャヴェリ(政治学者)**…著作→1「**君主論**」は絶対!現代の政治家も熟読する政治指南書

権力者は、**結果が有効であればたとえ手段が非道徳的でも許される**とした。権力者は**権謀術数**を用いてでも統治を行う必要がある。

マキャヴェリときたら、結果を求める2、**権謀術数の政治**と連呼したい。

マキャヴェリの政治と言えるのはどれか、1つ選びなさい。

- ① 権力者に可能なのはつねに民衆の要求に従った政治のみである。
- ② 権力者は深い信仰を持ち、宗教的権威により支配を正当化すべきである。
- ③ 権力者はいかなるときにも、厳格に道徳的にふるまわなければならない。
- ④ 権力者は権力の維持・強化のためにはいかなる手段も用いるべきである。

正解→④

**ピコ・デラ・ミランドラ**

ルネサンスの思想家ピコ・デラ・ミランドラは哲学を通じて現実世界の対立を融和させようとした。彼の主張として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 宇宙は何も知らない。人間の尊厳のすべては、考えることの中にあるので、人は努めてよく考えるべきである。
- ② 人間は自由なものとして生まれる。人間の自由は各人のものであり、他人にはその自由を処分する権利はない。
- ③ 人間は何らかの行いによるのではなく、信仰によって万物から自由であり、すべてのものの上に立つことができる。
- ④ 人間は自分の価値を自ら選ぶことのできる名誉ある存在であり、自由意志によって創造的に生きることができる。

正解→④

**得点源** 近代の自然科学者をキーワードで整理!

1 **コペルニクス**…「天体の観測について」を著し、地動説を唱える。

2 **ケプラー**…惑星の三大法則を発見。

3 **ブルーノ**…地動説を主張。数年間の幽閉のあと、火刑に処せられる。

4 **ガリレイ**…物体落下の法則を発見。地動説を証明。近代科学の父。

5 **ニュートン**…万有引力の法則を発見。

**センター2007 本試 近代における自然観・宇宙観**

近代における自然観や宇宙観についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 地球は宇宙の中心にあって、諸天体はその周りを回転していると考えられていたが、近代になるとピコ＝デラ＝ミランドラが、地球を始めとする惑星が太陽の周囲を回転しているという地動説を説いた。
- ② 宇宙は神が創造した有限な全体であると考えられていたが、近代になるとレオナルド＝ダ＝ヴィンチが、宇宙は無限に広がっていて、そこには太陽系のような世界が無数にあるという考え方を説いた。
- ③ アリストテレスによる目的論的自然観が支配的であったが、近代になるとケプラーが惑星の運動法則を、ニュートンが万有引力の法則を発見し、ともに自然には数量的な法則性があると説いた。
- ④ 錬金術師たちが自然について試行錯誤的に魔術的な実験を行っていたが、近代になるとデカルトが、実験・観察による帰納法的方法を用いて自然についての知識を得ることで、自然を支配できると説いた。

正解→地動説を唱えたのはコペルニクスである。宇宙の無限を唱えたのはブルーノである。デカルトのとった方法は演繹法である。正解→③

**得点源** 北方ルネサンスでは、**エラスムスの自由意志の考えと、ルターとの論争、トマス＝モアの「羊が人間を喰らう」**を理解しよう!

1 **エラスムス**…『**痴愚神礼賛**』『**自由意志論**』

→見栄・自尊心・傲慢・野心に満ち溢れた国王・法王・僧侶たちを愚か者の代表として批判。信仰の純粋さを説いた。

Pain is inevitable Suffering is optional

→ 奴隷意志を唱えるルターと **自由意志** を唱えるエラスムスは対立。

## ② **トマス＝モア** …『**ユートピア**』

→ 「**羊が人間を喰らう**」…羊毛生産を目的とした土地の囲い込みによって土地を奪われ、都市に追いやられた農民の惨状を表現した言葉。「ユートピア」とは「どこにもない理想の国」の意味。当時のイギリス社会を批判して、私有財産制のない平等な理想社会を描いたものだ。

**得点源** ルターの宗教改革は、**信仰義認説**、**聖書中心主義**、**万人司祭説**を理解しよう！

① **信仰義認説** …「信仰によってのみ義とされる」という言葉に代表されるルターの考え→神への信仰によってのみ、人間の犯した罪は義とされる（救われる）。

② **聖書中心主義** …聖書に基づく信仰のあり方を重視。

→ 派手な儀式や教会制度は不要。

③ **万人司祭説** …すべての信者は、神の前ではみな平等に司祭（神に仕える者）である。

つまり、**ルター** は、ローマ教会による免罪符の乱発を信仰に有害だとして批判した。そして、人が救われるのは善行によってではなく、自分の罪を自覚し、神を信仰することのみによると考えた（**信仰のみ**）。したがって、聖書に記された神のことば（福音）を読むことが信仰のよりどころ（**聖書のみ**）、すべての者が神に直接接することができることとされた（**万人司祭説**）。このように、教会による聖書の解釈や儀式はしりぞけられ、特権的な聖職者の身分も否定された。

**得点源** カルヴァンの宗教改革は、**予定説**、**職業召命観**を理解しよう！

① **予定説** …滅びる者（地獄行き）と救われる者（天国行き）はあらかじめ神によって決定されているという考え。

② **職業召命観** …職業は神から与えられた尊い使命であるから一生懸命働け。その報酬は神からの恵みなので質素・儉約に努めよ。

③ **職業人** …宗教ルネサンス期（北方ルネサンス）の理想的な人間像  
つまり、

① **予定説** …人間の来世での運命（救われるか、救われないか）は、神によってあらかじめ決められているという考え。来世で救われるか救われないかを、人間がこの世で確かめる手段はない。だから、来世で自分が救われる運命なのだという確証を得るために、人はこの世で神の言葉通りに信仰心厚く生きるように促される。つまり、**ただひたすら神の恩寵を信じて生きる** というもの。

② **職業召命観** …実は、職業召命観はルターもカルヴァンも唱えていた。両者とも、労働は神様から与えられた尊い使命（天職、召命）であるから一生懸命働け（**勤労**）とした。さらに**労働の報酬は神様からのお恵みだから、それを自分の享楽のために消費してはならず、質素・儉約に努めよといったのがカルヴァン**。カルヴァンの考えは、商工業者に受け入れられ、商工業の盛んなイギリス・フランス・オランダなどの西ヨーロッパに広まった。

**＋アルファ** プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神

社会学者であるマックス＝ウェーバーは、『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の中でカルヴァンの職業召命観の影響を受けたプロテスタンティズムと、のちに西ヨーロッパやアメリカに興った近代的な資本主義との関係を論じた。

プロテスタンティズムの倫理＝禁欲的な職業倫理→人々に富の蓄積と営利心をもたらした。

↓しだいに宗教的な基礎が失われる

資本主義の精神（＝経済的な営利活動を自らの義務とする倫理的生活態度）となった。

**センター過去問演習**

**2011 本試 ルターの思想**

ルターの思想の説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 神の前ではすべてのキリスト者は平等であり、教会の権威によってではなく、自己の信仰心によって直接神と向き合う。そして、聖書のみがキリスト教の信仰のよりどころとなる。
- ② どの人間が救われるかは、神の意志によってあらかじめ定められており、各人が聖書の教えに従って、神への奉仕として世俗の職業生活に励むことが、救いの確証になり得る。
- ③ 聖書に説かれた信仰の真理と自然の光に基づく理性の真理とは区別されるが、両者は矛盾するのではなく、理性の真理が信仰の真理に従うことによって互いに細くし合い調和する。
- ④ キリスト者は、すべてのものの上に立つ自由な主人であって、誰にも従属していない。したがって、農民が教会や領主の支配に対抗して暴徒化することは十分な理由がある。

正解→①

**2017 本試 ルネサンス期の文学・芸術**

ルネサンス期の文学・芸術についての説明として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ボッカチオは、快楽を求める人々の姿を描いた『カンツォニエーレ』を著し、人間解放の精神を表現した。
- ② レオナルド・ダ・ヴィンチは、解剖学などを踏まえた絵画制作を通じ、人間や世界の新たな表現法を提示した。
- ③ アルベルティは、建築を始め様々な分野で活躍し、自らの意欲次第で何事も成し遂げる人間像を示した。
- ④ ダンテは、罪に苦悩する人間の魂の浄化を描いた『神曲』を著し、人文主義的な機運の先駆けをなした。

正解→②と④は正文。